

第3章
小学生向け
講義用テキスト
《参加・体験型》

第3章 小学生向け講義用テキスト《参加・体験型》

I 授業モデル〈参加・体験型 45分〉

授業モデル
〈参加・体験型 45分〉

テーマ	No.	項目	内容及び目的
導入	1	あいさつ	
	2	自己紹介	
	3	税理士の仕事	簡単に紹介
	4	内容テーマの紹介	「私たちが主人公」「思いやり」という言葉が税金とどんなつながりをもっているかを一緒に考えていく形で授業が進行することを説明する
租税の意義・役割	1	税の使われ方	税金が私たちの生活を支えてくれるなくてはならないものであり、私たちのために使われていることを学習する
	2	税の集め方	税金を負担しているのが私たちであること、税金は色々な集め方があることを学習する
税金の公平な集め方 (ゲーム)	1	みんなから同じ金額を集める	ゲームを通じて、児童に「課税の公平」を自ら考えてもらうことにより、税金の主体者は私たちであることを体感してもらう
	2	みんなから同じ率で集める	
	3	負担する能力に応じて集める	
「私たちが主人公」「思いやり」	1	私たちが主人公	税は大切なものであるから納めなければならない、というだけでなく、「私たちのものとして」、「私たちが支え」、「私たちが決めていく」ことの大切さを学習する キーワード「私たちが主人公」について説明する。その上で、「国会」と「日本国憲法」について説明する
	2	思いやり	キーワード「思いやり」について説明する お互いを思いやる気持ちを大切にすることで、税が一層、社会のために役立つものになることを説明する。 社会全体のことを考える大切さを伝える
税理士の仕事	1	税理士の仕事	※時間があれば再度「税理士の仕事」の紹介をする
日本の財政と今後の課題	1	日本の財政の現状	現在の日本が抱える課題について認識し、関心を抱き、児童自らが考えて、「判断できる国民」として成長できるきっかけ作りを目的とする
	2	今後の課題	財政赤字の原因や解消するためにはどうしたら良いかを考える
まとめ	1	まとめ (1) 税の意義・役割 (2) 国民主権と租税法律主義 (3) 集めたお金と使われているお金のバランス	三つのテーマについて確認 税金が社会を支えるために必要であること 税金の集め方、使い方が決まるまでのプロセスを確認。 「私たちが主人公」「思いやり」 歳出(支出)と歳入(税収)のバランスを適正にするためにはどうしたら良いかについて考える
今日の授業でおぼえておいてほしいこと (児童へのメッセージ)		租税教室をきっかけに、税金だけでなく、社会における様々な問題について自らが考え、判断し、行動できるようになって欲しいということを伝え、これからの日本を担っていくという意識を児童に持ってもらおう	

※時間がある場合は、「日本の財政と今後の課題」についても、一緒に考えてみましょう。

II 講義用テキストの使用にあたって

はじめに

このシナリオは、教室でクラス単位又は少人数で授業を行うことを前提に、児童が積極的に参加することのできる体験型の授業を想定して作成しています。

ポイントを絞り授業を組み立てることで、1コマ（45分）・2コマ（90分）・60分などの授業時間にも対応できます。

目的

「私たちが主人公」「思いやり」をキーワードとして授業を展開することにより、「税金」とこれら二つのキーワードがどのようなつながりを持っているかを児童と一緒に考えて（これは、重要なポイントです）いきます。

単に「税金を納めましょう」という納税教育だけで終わるのではなく、租税の意義・役割・公平な仕組み・租税法律主義などの基礎知識を伝えることによって、租税に興味・関心を抱いてもらい、租税について深く考え理解する力を育み、租税教育を通じて、児童一人一人が社会全体のことを考え、租税立法のあり方や税金の使途について正しい判断力を持つ国民に成長してもらうことが目的です。

留意点

シナリオとそれに対応する説明文で構成されています。

シナリオを単に読むだけでも授業としては成立しますが、説明文の内容を理解したうえで、自分の言葉としてお話していただく方がより児童の心に届きます。

また、自分の言葉にすることにより、授業時間の関係でポイントを絞らなければならない場合でも、臨機応変な対応が可能になります。

授業進行の参考となるように、板書のイメージ図（開始時、中間時、終了時）をシナリオ中に記載しています。

このシナリオはあくまでも一例です。これを叩き台に、是非、自分用のシナリオを作成していただければと思います。



講義用テキスト

シナリオ	説 明 文
導 入	
<p>① あいさつ</p> <p>『皆さんこんにちは！これから租税教室をはじめます。』</p> <p>『皆さんは「税金」について考えたことはありますか？』</p> <p>『実は私たちは税金と深く関わり合って暮らしています。皆さんも買い物をすれば消費税を払っていますね。一方で皆さんは税金の恩恵を受けて日々の生活を送っているとも言えます。』</p> <p>『今日はその税金について一緒に考えていきましょう。』</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・《あいさつ》＝《最初の印象》は大切です。元気にあいさつをすることで児童の目をより授業に向けさせることができます。また、児童は講義に興味を抱けば自然と授業に入り込めます。そのためにも、児童に今日の授業は何か自分たちのためになりそうだ、この先話を聞いてみたい、と思わせることが大切です。 ・税金のイメージを上手に児童に伝えるためには、税金について具体的に説明するなどの工夫が必要です。 ・一番重要なことは、児童と一緒に考えていくということです。一方的に講義をするのではなく、児童とともに考える時間を大切にします。
<p>② 自己紹介</p> <p>『私は〇〇税理士会〇〇支部に所属して、税理士という仕事をしている●●●●です。』</p>	
<p>③ 税理士の仕事</p> <p>『税理士はどのような仕事をしているか知っていますか？』</p> <p>『皆さん、病気になったらお医者さんに相談しますよね。また、勉強がわからなかったら学校の先生に相談しますね。それと同じように税金についてわからなければ税理士に相談する、税理士とはそんな職業です。』</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・働くことへの意識を高めてもらうため、職業としての税理士を紹介してみましょう。 ・あえてここでは詳しい説明をせず、税の専門家であるにとどめておきましょう。この時点で専門的な話をしても十分な理解を得にくいからです。後述の「税の使われ方」・「税金の集め方」の話が済んだ後に説明した方が理解を得やすくなります。

シナリオ	説明文
<p>『また、この租税教室の授業のように小学校や中学校で税についてお話することも、われわれ税理士の大切な仕事の一つです。』</p> <p>④ 内容テーマの紹介</p> <p>『何て書いてあるかな？ みんなで一緒に読んでみよう。』</p> <p>～「私たちが主人公」「思いやり」～</p> <p>『今日は、税金とこれらの言葉がどんなつながりを持っているか、これをみんなで一緒に考えてみよう。』</p> <p>板書イメージ図（開始時）</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 20px; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; margin: 0 auto; padding: 5px; text-align: center;">私たちが主人公</div> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; margin: 20px auto; padding: 5px; text-align: center;">思いやり</div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・租税教室を行うことが、税理士の重要な仕事の一つであることを説明します。 ・「私たちが主人公」「思いやり」と板書（パネルにして貼っても良い）をして、児童に発問します。 ・常にこの二つの言葉を板書しておきます。それは、後述する「税の使われ方」や「税金の集め方」もこの二つの言葉につながっていくからです。最終的に、授業をこれらのキーワードに集約していきます。 ・今日のテーマである「税金」とこれらの言葉がどのようなつながりを持っているかを児童と一緒に考えていく形で授業を進行することを説明します。 ・テーマの内容は『現行学習指導要領・生きる力』に準拠するよう考慮しています。（第2章 I 参照） <p>※現行学習指導要領・生きる力 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/index.htm 参照</p>

シナリオ	説明文
<p>租税の意義・役割</p> <p>① 税の使われ方</p> <p>発問</p> <p>『私たちが生活をしていくためにはどんなものが 必要になりますか?』</p> <p>服、靴、食べ物など → お金がかかる</p> <p>お金を得る → 働く必要がある</p> <p>『私たちは働いて、お金（収入）を得て、 必要なものを買って、生活しています。』</p> <p>発問</p> <p>『お金を払わず、もらったり、使ったり、お世 話になっているものがありますが、どんなもの があるでしょう?』</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 20px; text-align: center;"> <p>学校・公園 警察・消防署 道路など</p> </div>	<p>目的 税金は、私たちの生活を支えてくれる、なくては ならないものであり、私たちのために使われている ことを学習します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たちが生活をしていくためには、様々なものが必要と なりますが、どんなものが必要となるか児童に発問しま す。 ・・・服、靴、食べ物など ・児童が実感できるよう、なるべく身近なものを具体的に 挙げるようにします。 ・児童から意見が出てこない場合は、講師から話を振るな どして、児童との対話となるように工夫するとよいで しょう。 ・問答を繰り返しながら、話を深めていきます。 ・私たちが生活をするためには「お金がかかること」、そ のお金を得るには「働く必要があること」を児童との話 の中で確認します。 ・私たちが生活をしている中で、お金を払わずもらったり、 使ったり、世話になっているものがありますが、どんな ものがあるか児童に発問します。 ・・・教科書、学校、公園、警察、消防署など ・児童の意見を板書します。 ・できるだけ、児童から意見を引き出せるように工夫しま す。 ・児童から意見が出てこない場合は、児童の身近な教科書 等を引き合いに出したりしながら、意見を引き出せるよ うに工夫します。

シナリオ	説明文
<p>発問</p> <p>『これらに共通することって何でしょう？』</p> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;"> <p>生活を支えるもの</p> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;">税金</div> <div style="font-size: 2em; color: #00a08a; margin-right: 10px;">➔</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: left;"> <p>学校・公園</p> <p>警察・消防署</p> <p>道路など</p> </div> </div> </div> <p>『これらに使われているのが「税金」なのです。「税金」は私たちの健康で文化的で豊かで安心して暮らせる社会を支えるとても大切な役割を果たしています。「税金」は私たちの生活を支えてくれる、なくてはならないものであり、私たちのために使われているのです。』</p>	<p>板書したものに共通しているものは何か児童に発問します。</p> <p>・・・みんなで使うもの等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の意見を聞きます。 ・児童から意見が出てこない場合は、講師から話してみるのも一つの方法でしょう。 <ul style="list-style-type: none"> ☆みんなで使うもの ☆私たちの生活を支えてくれているもの ☆とてもお金がかかるもの ・身近な例として、児童の生活圏内にある施設や、社会科見学等でいったことのある施設などを取り上げると児童はイメージしやすくなります。 ・学費等の学校関係の話（「小学生1人あたり1ヶ月〇万円」や「この学年全体では・・・」「この学校全体では・・・」など）をすると、自分たちのために税金が使われていることをイメージしやすくなります。 <p>これらのために使われているのが税金である旨を話します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・税金は、私たちの生活を支えてくれる、なくてはならないものであり、<u>私たちのために使われている</u>ことを伝えます。

シナリオ	説明文
<p>② 税の集め方</p> <p>発問</p> <p>『私たちのために使われている税金はどこから来るのでしょうか？誰から集めているのでしょうか？』</p> <p>『税金は、私たちから集めています。』</p> <p>発問</p> <p>『消費税の他に、どんな税金があるか知っている？』</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 集める 消費税 所得税 法人税 ・ ・ ・ </div> <div style="font-size: 2em; margin: 0 10px;">→</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">税金</div> <div style="font-size: 2em; margin: 0 10px;">→</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 生活を支えるもの 学校・公園 警察・消防署 道路など </div> </div>	<p>目的 ここでは、税金を負担しているのは私たちであること、税金にはいろいろな集め方があることを学習します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たちのために使われる税金は、どこから来るのか、だれから集めるのか児童に発問します。 ・・・・私たちから集める ・児童の意見を聞きます。 ・児童の意見が出てこない場合は、自分たちにも負担している税があることを伝えてみます。 →消費税、買い物をしたときに払う等 ・児童がイメージしやすい消費税から入ると話がはじめやすくなります。 ・税金は、<u>私たちから集めている</u>ことを伝えます。 ・消費税の他に、どんな税金を知っているか児童に発問します。 ・・・・所得税、法人税等 ・この発問から、税金にはいろいろな種類があり、それぞれいろいろな集め方があることを導きます。 ・児童の意見を板書します。 ・児童から意見が出てこない場合は、担任の先生に聞いてみるなど工夫するとよいでしょう。 ・個々の税金について詳しい説明はあえてせず、興味があれば、どんな集め方（＝税金）があるのか各人で調べてみることを投げかけておきます。

シナリオ	説明文
<p>『税金には、いろいろな種類があって、私たちから様々な方法で集めています。』</p> <p>『さて、ここまでで皆さんはとても大切なことを勉強しました。それは、「税金は私たちから集めて、私たちのために使われている」ということです。これが税金の仕組みです。』</p> <p style="text-align: center;">板書イメージ図（中間時）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 私たちが主人公 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 集める 消費税 所得税 法人税 … … </div> <div style="text-align: center; margin: 0 10px;"> → 税金 → </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 生活を支えるもの 学校・公園 警察・消防署 道路など </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> 思いやり </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・税金にはいろいろな種類があって、その種類によって〇〇税と名前がついていることを話します。 ・時間があれば、消費税、所得税について簡単に説明をしてもよいでしょう。 <p>税金には、いろいろな種類があって、私たちから様々な方法で集めていることを確認します。</p> <p>全体を振り返り、「税金は私たちから集めて、私たちのために使われている」という税金の大きな仕組みを児童と一緒に確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この授業の中で重要なポイントの一つとなります。児童に伝わるように、ゆっくり話をする、声を大きくするなど、メリハリをつけるとよいでしょう。

シナリオ	説明文
<p data-bbox="272 257 671 293">税金の公平な集め方（ゲーム）</p> <p data-bbox="156 667 790 835">『今、皆さんに税金を集めるという話をしました。そこで、これから、税金をどうやって集めたらいいいのか、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。』</p> <p data-bbox="156 1077 790 1151">『このクラスを××（先生の名前など）国と名付けましょう。皆さんはその国の国民です。』</p>	<p data-bbox="805 257 1439 331">目的 ゲームを通じて、児童と「税金を公平に集める（＝「課税の公平）」ことについて考えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="805 389 1439 600">・税の切り口にはいろいろありますが、ここでは「税を集める」という切り口で児童と考える事例を提示します。「税の使われ方」を切り口にしたり、児童と税を考える方法は他にもあろうかと思しますので、適宜、よい事例をお使いになるとよいでしょう。 <li data-bbox="805 658 1439 869">・このゲームは、収入の異なる班から、どのようにして税金を公平に集めるかをみんなで考えるものです。立場の違いにより、公平の感じ方も異なることから、児童の意見を否定することはせず、みんなで考えていくことが重要となります。 <li data-bbox="805 927 1439 1048">・クラスを一つの国、児童をその国の国民とします。 <li data-bbox="805 972 1439 1048">・国の名前は、担任の先生の名前を付けるなどしてもよいでしょう。 <li data-bbox="805 1106 1439 1227">・児童を六つの班に分けゲームを始めますが、班の数は六つに限ることなく、現場の状況に応じて適宜決めるとよいでしょう。 <li data-bbox="805 1285 1439 1406">・往々にして計算することのみに夢中になってしまう児童もいるので、ゲームの趣旨からずれないように、講師は気をつけるようにします。

シナリオ	説明文																																																								
<p>① みんなから同じ金額を集める</p> <p>発問 (例題1)</p> <p>『1班から6班まで、全ての班の収入を100万円とします。××国では、国民みんなのために使う税金を180万円集めたい。しかも、みんなから「公平」に集めたい。さて、幾らずつ集めればいいでしょう?』</p> <table style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">収入</th> <th style="text-align: center;">税金</th> <th style="text-align: center;">税率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1班</td><td>100万円</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2班</td><td>100万円</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3班</td><td>100万円</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4班</td><td>100万円</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5班</td><td>100万円</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>6班</td><td>100万円</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>合計</td><td>600万円</td><td>180万円</td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>『30万円は100万円の何%かわかるかな?』</p> <p>『これを「税率」といいます。消費税は8%だったね。』</p> <p>② みんなから同じ率で集める</p> <p>発問 (例題2)</p> <p>『今はどの班も100万円の収入だったけど、実際にはどうだろう。みんなの収入が同じとは限りませんから、今度は収入を変えて考えてみましょう。』</p> <table style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">収入</th> <th style="text-align: center;">税金</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1班</td><td>250万円</td><td></td></tr> <tr><td>2班</td><td>150万円</td><td></td></tr> <tr><td>3班</td><td>100万円</td><td></td></tr> <tr><td>4班</td><td>50万円</td><td></td></tr> <tr><td>5班</td><td>30万円</td><td></td></tr> <tr><td>6班</td><td>20万円</td><td></td></tr> <tr><td>合計</td><td>600万円</td><td>180万円</td></tr> </tbody> </table>		収入	税金	税率	1班	100万円			2班	100万円			3班	100万円			4班	100万円			5班	100万円			6班	100万円			合計	600万円	180万円			収入	税金	1班	250万円		2班	150万円		3班	100万円		4班	50万円		5班	30万円		6班	20万円		合計	600万円	180万円	<ul style="list-style-type: none"> ・各班の収入が同額のケースを提示します。 ・発問の際、必ず「みんなから公平に集めたい」旨を話します。 ・すぐに30万円ずつという話が出るのが予想されます。 ・進行に合わせて表を完成させていきます。 ・収入が同額なので、同額を集めるのが「公平」という考え方からスタートします。 ・30%という答えを引き出し、ここで税率という概念を説明します。 ・各班の収入が異なるケースを提示します。 ・実社会ではそれぞれの収入には違いがあることを説明し、それぞれの班に異なる収入を割り振ります。(講師が決めたり、クジを使用したりしてもよいでしょう。) ・例題1の時と同じ条件にします。 (収入の合計は600万円、税金の合計は180万円)
	収入	税金	税率																																																						
1班	100万円																																																								
2班	100万円																																																								
3班	100万円																																																								
4班	100万円																																																								
5班	100万円																																																								
6班	100万円																																																								
合計	600万円	180万円																																																							
	収入	税金																																																							
1班	250万円																																																								
2班	150万円																																																								
3班	100万円																																																								
4班	50万円																																																								
5班	30万円																																																								
6班	20万円																																																								
合計	600万円	180万円																																																							

シナリオ	説明文																																
<p>『××国では、国民みんなのために使う税金を180万円集めたい。前と同じように30万円ずつでいいかな？6班の人は払えないね。どうしよう？』</p> <table style="width: 100%; margin-top: 20px;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 20%;">収入</th> <th style="width: 15%;">税率</th> <th style="width: 15%;">税金</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1班</td><td>250万円</td><td>30%</td><td>75万円</td></tr> <tr><td>2班</td><td>150万円</td><td>30%</td><td>45万円</td></tr> <tr><td>3班</td><td>100万円</td><td>30%</td><td>30万円</td></tr> <tr><td>4班</td><td>50万円</td><td>30%</td><td>15万円</td></tr> <tr><td>5班</td><td>30万円</td><td>30%</td><td>9万円</td></tr> <tr><td>6班</td><td>20万円</td><td>30%</td><td>6万円</td></tr> <tr><td>合計</td><td>600万円</td><td></td><td>180万円</td></tr> </tbody> </table> <p style="margin-top: 20px;">『これって、公平だと思う？』</p>		収入	税率	税金	1班	250万円	30%	75万円	2班	150万円	30%	45万円	3班	100万円	30%	30万円	4班	50万円	30%	15万円	5班	30万円	30%	9万円	6班	20万円	30%	6万円	合計	600万円		180万円	<ul style="list-style-type: none"> ・例題1と同じように各班の税金を30万円ずつにすると6班が納められなくて困ってしまいます。どうしたらよいか児童に考えてもらいます。 ・先に「税率」の話をしているので、「同率で集める(30%)」という話が出れば、左のような表を用いて話を展開させてみましょう。 ・進行に合わせて表を完成させていきます。 ・ここで「収入が多くある人に、より多く負担してもらう」という話が出たら、同率で集めることにこだわらず、次の累進課税の話に移ってもよいでしょう。 ・児童の意見を否定することなく、よく聞き、異なる意見が存在することを確認するようにします。
	収入	税率	税金																														
1班	250万円	30%	75万円																														
2班	150万円	30%	45万円																														
3班	100万円	30%	30万円																														
4班	50万円	30%	15万円																														
5班	30万円	30%	9万円																														
6班	20万円	30%	6万円																														
合計	600万円		180万円																														
<p>③ 負担する能力に応じて集める</p> <p>発問 (例題3)</p> <p>『実は、この国で生活をするためには最低でも20万円が必要です。するとどうだろう？みんな、生活できそうかな？おや、6班の人はどうだろう・・・』</p> <table style="width: 100%; margin-top: 20px;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 20%;">収入</th> <th style="width: 15%;">税率</th> <th style="width: 15%;">税金</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1班</td><td>250万円</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2班</td><td>150万円</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3班</td><td>100万円</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4班</td><td>50万円</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5班</td><td>30万円</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>6班</td><td>20万円</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>合計</td><td>600万円</td><td></td><td>180万円</td></tr> </tbody> </table>		収入	税率	税金	1班	250万円			2班	150万円			3班	100万円			4班	50万円			5班	30万円			6班	20万円			合計	600万円		180万円	<ul style="list-style-type: none"> ・例題2に加えて「この国で生活をするためには最低20万円が必要である」という条件を付けたケースを提示します。 ・6班は、税金を納める余裕がありません。どうしたらよいか児童に考えてもらいます。 ・「同率で税金を集めては生活できない人もいる」と伝え、「収入が多くある人に、より多く負担してもらう」という意見が出てくれば、具体的にどのように集めるのか、左のような表に書き込んでみます。
	収入	税率	税金																														
1班	250万円																																
2班	150万円																																
3班	100万円																																
4班	50万円																																
5班	30万円																																
6班	20万円																																
合計	600万円		180万円																														

第3章 小学生向け講義用テキスト《参加・体験型》

シナリオ				説明文
『では、率を変えてみようか？』				<ul style="list-style-type: none"> ・意見がなければ、税率を変えて、左記のような考え方もあると児童に提示してもよいでしょう。
	収入	税率	税金	
1班	250万円	40%	100万円	
2班	150万円	34%	51万円	
3班	100万円	20%	20万円	
4班	50万円	12%	6万円	
5班	30万円	10%	3万円	
6班	20万円	0%	0万円	
合計	600万円		180万円	
『これって、公平だと思う？』				<ul style="list-style-type: none"> ・児童の意見を聞いてみます。 ・子どもたちの意見を否定することはせず、それぞれの考え方、感じ方には違いがあることを確認します。その上で、「負担する能力に応じて公平」という考え方を話し、これが今の日本の所得税の考え方である旨を伝えます。(応能負担と累進課税制度の説明)あわせて、ここで「思いやり」という話を入れてもよいでしょう。所得税は所得が低い人への配慮がある、という話をしてみましよう。 ・税金は集め方によって負担感が違いますから、その中でみんなから税金を集めるためにはこういうことを考える必要があると話し、次の「私たちが主人公」「思いやり」に展開していきます。

シナリオ	説明文
<p style="text-align: center;">「私たちが主人公」「思いやり」</p> <p>① 私たちが主人公</p> <p>『では、税金の集め方や使い方は、一体誰が考え、決めているのだろうか？』</p> <p>『税金の公平な集め方を勉強したけど、誰が集め方を決めたかな？』</p> <p>『そう、国民、つまり私たちだね。ところで、皆さん、国会を知っていますか？』</p> <p>『みんな、国会って聞いたことあるかな？ 私たちは私たちの代表者を、選挙を通じて国会や議会へ送っています。実はその私たちの代表者が、税金の集め方や使い方を決めているのです。だから、私たちが代表者を通じて、税金の集め方や使い方を決めていると言えます。』</p> <p>『だから、税金というのは「私たちが決めたルールに従って、私たち自身が計算をして、納め、それを私たちが決めた使い方に従って、私たちのために使っている」というものです。』</p> <p>『今日、最初に黒板に書いた言葉を覚えていますか？「私たちが主人公」と書きました。税金を考えると、その中心には常に私たちがいるのです。それが「私たちが主人公」ということなのです。』</p> <p>『私たちが主人公ということは、言葉を換えると私たちは自分たちのことを自分たちで決めることができる、自分たちで決める権利を持っているということです。このことを日本国憲法で「国民主権」として定めています。皆さん、日本国憲法を知っていますか？』</p>	<p>目的 税は大切なものであるから納めなければならないというだけではなく、私たちのものとして、私たちが支え、私たちが決めていくことの大切さを学習します。</p> <p>日本での実際の仕組みについて説明します。</p> <p>「国会」と黒板に書きます。</p> <p>三権分立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「国会の役割 = 法律を作る・予算を作る」を説明します。税金の集め方も使われ方も法律（ルール）に基づいて決められていること、税金は原則として自分で計算して納めることを説明します。 ・「租税法律主義」・「申告納税制度」ということですが、これらの言葉を実際に提示するかどうかは、児童の反応を見ながら判断します。 ・「税金 = 取られるもの」ではなく、自らが主人公として、極めて積極的に取り組んで行くべきものであることを理解してもらいます。 <p>ここで、「税」と「私たちが主人公」という言葉が結びついたことを説明します。</p> <p>次に、そのおもとに日本国憲法がある旨を説明します。</p> <p>「日本国憲法」と黒板に書きます。</p>

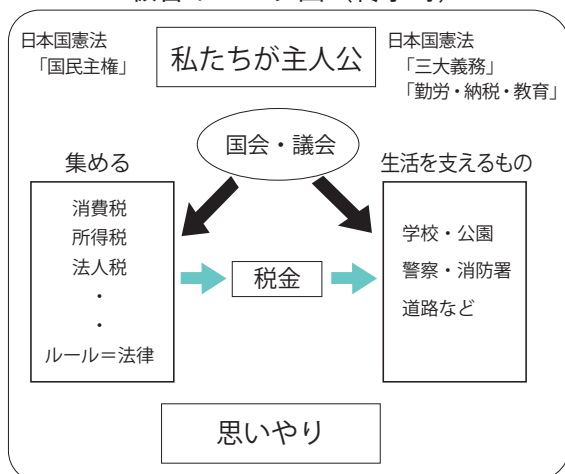
シナリオ	説明文
<p>『それでは、日本国憲法について皆さんが知っていることを教えてください。』</p> <p>『日本国憲法の中で定められている国民の三大義務、何かわかりますか？』</p> <p>『勤労の義務・納税の義務・教育を受けさせる義務です。』</p> <p>『勤労 = 働くことは貴い行為です。自分の生活を支え自分を豊かにしてくれると同時にその一部は税金として、社会の役に立つのです。それは素晴らしい社会参加であり、同時に社会貢献でもあるのです。』</p> <p>納税 = 税金が私たちの暮らしに大切であることは勉強しました。だから、みんな、税金を納めなければなりません。でも、義務だから納めるというだけではなく、自ら決めたルールに従って、誇りをもって税金を納められる社会を自らがその主人公として、作っていかねければならないと思います。』</p> <p>教育 = 皆さんは教育を受ける権利があります。大人は子どもに教育を受けさせる義務があります。未来の主人公って、誰？ そう皆さんのことですよ。これからの社会を背負って立つ未来の主人公を育てることが大切なのです。』</p>	<p>・国民主権という言葉を出します = 私たちが主人公という話をします。</p> <p>同時に義務があることも伝えていきます。</p> <p>・社会科で学習済みの場合、正解を得られることもありますが、三大原則と誤ることもあります。</p> <p style="text-align: center;">三大義務のイメージ図</p> <div data-bbox="890 631 1359 967" style="text-align: center;"> <pre> graph TD A((勤労)) --> B((納税)) B --> C((教育)) C --> A </pre> </div> <p>・国民の三大義務の一つに「納税の義務」がありますが、税を単に義務としてとらえるのではなく、自らが主体的に関わっていくべきものと捉えることで、適正な納税義務の実現が図られていきます。</p> <p>したがって、義務と同時に権利を積極的に捉える心構えが必要であると伝えたいところです。</p> <p>・このような話は教育現場において、なかなか触れられることがなく、児童が大人になっていく過程でほとんど聞くことがないのが現状だと思われます。われわれの社会になくてはならない税を主体的に考える時間を作ることは、これから大人になる児童にとって、とても重要なことであると思われます。</p>

シナリオ	説明文
<p>② 思いやり</p> <p>『私たちが主人公という話をしました。だからといって、いつでも自分が自分がと言っているのは、社会が成り立ちません。税金の仕組みも同じです。みんなから集めて、みんなの為に使う。そんな税金の仕組みを支えるために必要なのが「思いやり」の心です。</p> <p>私たちは決して一人で生きているのではありません。周りを見てください。友達があります。先生があります。家に帰れば家族があります。たくさんの人たちに支えられて、私たちは生きています。自分を大切にすると同じくらい、周りのみんなのことも大切にします。そういう気持ちを持って初めて、どうやって集め方をすれば、どうやって使い方をすれば、みんなのためになるのかを考えることができるのです。』</p> <p>『「私たちが主人公」「思いやり」という言葉が税金とどんなつながりを持っているか、考えられましたか？私から皆さんに「私たちが主人公」と「思いやり」の二つの言葉をプレゼントします。「私たちが主人公」ってどんなことだったかな？「思いやり」って何だったかな？また、考えてみてください。』</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「私たちが主人公」と対になる「思いやり」というキーワードについて説明します。 ・児童には、人は一人では生きられない、みんなのことを考えることが大切であり、お互いを思いやる気持ちを大切にすることで、税が一層、社会のために役に立つものになると説明します。 ・社会全体を考える大切さが、「思いやり」という言葉とともに児童に届くようにします。 ・人それぞれ、いろいろな考え方をしているのが社会であり、自分とは異なった意見を尊重することの大切さも伝えます。 ・今までの説明が、講師の一方的な話ではなく、児童と一緒に考えてきたことを確認します。 <p>「私たちが主人公」「思いやり」という二つのキーワードに、これまでの授業は集約されています。</p>

シナリオ

『これからの日本を支えていくのは皆さんののです！皆さんが 大人になった時に、今よりも、もっと素敵な日本にするために自分たちがどうすればいいのか？ 今回の租税教室を考えるきっかけにしてもらえれば幸いです。』

板書イメージ図（終了時）



税理士の仕事

『税金の計算は、先ほど説明した税金に関する法律に基づいて計算します。』

『その税金に関する法律はとても難しいので、税金に関する専門家である税理士が、依頼者の代わりにその人の税金を計算・申告したり、税金に関する相談に乗ったりします。』

説明文

・単に「税金を納めましょう」という納税教育だけで終わるのではなく、租税の意義・役割・公平な仕組み・租税法主義などの基礎知識を伝えることによって、租税に興味・関心を抱いてもらい、租税について深く考え理解する力を育み、租税教育を通じて、児童一人一人が社会全体のことを考え、租税法のあり方や税金の用途について正しい判断力を持つ国民に成長してもらうことが真の目的です。

・時間があれば、ここで再び税理士の仕事を説明します。

・「租税法主義」・「申告納税制度」を説明し、理解してもらえたであろうこの時点で、税理士の仕事を説明するとすんなりと分かってもらえるでしょう。

・また、状況により必要があると思われる場合は、税務署と税理士の仕事の違いについて一言触れてもよいでしょう。

第3章 小学生向け講義用テキスト《参加・体験型》

時間が取れるようであれば、日本の財政の現状についても、一緒に考えてみましょう。

シナリオ	説明文
<p style="text-align: center;">日本の財政と今後の課題</p> <p>① 日本の財政の現状</p> <p>『ここまで、税金がどんなことに使われているか、また、どのように集めたらいいのか、を学んできました。』</p> <p>『では、実際に今の日本で集められた税金とみんなのために使われているお金がいくぐらいになるのか、最後に少しでも触れたいと思います。』</p> <p>『昨年度、使われたお金は約〇〇兆円でした。』</p> <p>『これに対して集められた税金はいくらぐらいあったと思いますか？』</p> <p>『実は、〇〇兆円しかなかったのです。実際に使われたお金のうち半分程度ということですね。』</p> <p>『では、あと半分はどうしたのでしょうか？』</p> <p>『それは、(国債を発行して) 多くの人からお金を借りているのです。』</p> <p>『集めた税金と使われているお金が同じ金額であれば何も問題はありません。だけど、現在の日本ではそうならないのです。』</p>	<p>目的 ここでは、『日本の財政の現状』について考え、財政赤字・少子高齢化等の現在の日本が抱える課題に触れながら、民主主義・国民主権の見地から租税立法のあり方及び税金の使途等について関心を抱き、正しい判断力を持てる国民として成長できるよう、児童が自ら考えるきっかけ作りを目的とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生が対象なので『財政』という言葉は使わずに、財政の問題について触れることにします。 ・直近の年度の財政状態を具体的に説明し、どのように財政赤字になっているのかをわかりやすく説明します。 ・財政赤字が縮小しているようであれば、その年度の数字により、その旨を説明します。 ・黒板に図を書きながら説明するのも、児童が理解しやすくなるでしょう。(T勘定・円グラフなど) ・『国債』という言葉が難しいようであれば、単に多くの人からお金を借りているという表現でもよいと思います。 ・児童が、現在の日本が抱える問題について認識できるように話します。

シナリオ	説明文
<p>『つまり、必要なお金（収入）のうち半分は借金に頼っていることになります。これは昨年度だけではなく、毎年続いてきました。』</p>	
<p>『このままの状態では、借金が増えるばかりです。そこで政府は、今から〇年後の2020年度を目標に、借金がこれ以上増えないように収入と支出のバランスをとるように計画しています。』</p>	<p>・悲観的な話ばかりでなく、国の借金がこれ以上増えないように政府が取り組んでいることを伝えておきます。</p>
<p>② 今後の課題</p>	
<p>『しかしここで、将来に向けての課題もあります。生まれてくる子どもが少なくなるとともに、働いている人たちが高齢になるという状態が予想されています。働く世代の人口減少で税金は今後ますます集まりにくくなるかもしれません。』</p>	<p>・将来、日本が抱えるであろう問題点について触れるとともに、児童が財政赤字の大きな原因について認識できるように話します。</p>
<p>『一方で、高齢化が進むと今よりもっと医療などにお金がかかるようになり、税金は現在よりもさらに多く必要となっていくでしょう。』</p>	
<p>『どうしたらいいのでしょうか？』</p>	
<p>『お金が足りない場合の解決方法としていくつか考えられます。』</p>	
<p>『一つは、もっとたくさん税金を集めること。つまり増税ですね。』</p>	<p>・財政赤字を解消するためにはどうしたらいいか、を考えます。安易に『増税』や『歳出削減』に誘導するのではなく、慎重に考えることが大事であることを伝えます。</p>
<p>『でも、増税だけではありません。景気がよくなれば、会社の利益が増え、みんなの収入も増えるので、税金も増えますよね。』</p>	<p>・歳入が増えるための方法として、『増税』だけではないことも触れておきます。景気の良し悪しが財政にも大きく影響していることを理解できるように話します。</p>

第3章 小学生向け講義用テキスト《参加・体験型》

シナリオ	説明文
<p>『ですから、景気がよくなるような対策を行うことも大事ですね。』</p> <p>『二つめは、使うお金を減らすことです。しかし、本当に必要なお金を減らしてしまっただけでは、困る人が出てきますので、無駄遣いをしない努力が必要でしょう。』</p> <p>『実際に国会では、どうしたら良いか、たくさんの議論がされています。』</p> <p>『皆さんはどのような解決方法が良いと思いますか？』</p> <p>『この議論においては、ひとつだけが正しい解決方法ではなく、いろいろな方法のバランスをとることが大切なのではないでしょうか。』</p> <p>『足りないから増税する、だけではなく、無駄をなくす工夫と努力も必要です。』</p> <p>『無駄をなくす工夫としては、皆さんにも今すぐ出来ることがあります。』</p> <p>『例えば食事を残さなければゴミが減って、税金が使われているゴミ処理の費用を減らすことが出来ますよね。一人一人は少ない金額でも、みんなで行動すれば大きな金額を節約することができます。』</p>	<p>・使うお金を減らせば、どのような影響があるのか、まで考えましょう。(財政赤字を解消するために医療や福祉のお金を減らしてしまっているのか、など)</p> <p>・ここでタイムリーな話をはさむとイメージがしやすいでしょう。</p> <p>① 消費税の増税(歳入増の例として)</p> <p>② 年金減額・医療費の削減など(歳出減の例として)</p> <p>・身近な例を挙げて、一人一人の努力によっても歳出を減らすことができることを話します。</p> <p>その他、学校の備品を大切に使うことによって長く使えるようになり節約につながる、などの例を話すのもよいでしょう。</p>

シナリオ	説明文
<p>『先ほどお話したように、税金はみんなで決めるルールです。将来、皆さんが決めていくことができます。決して誰かに押し付けられるものではないのです。』</p> <p>『ですから、税金について増税で集めることばかりではなく、税金の使い道にも関心を持ってほしいと思います。』</p> <p>『皆さんもやがて大人になり、選挙権を得ることになります。そして働いて収入から税を負担し、社会をささえていくことになるでしょう。』</p> <p>『今後、少子高齢化により、必要なお金は増えていくのに、集める税金は減っていくことが予想されますが、そのとき、どのようにして税金を集めるのか。使い道についてはどうするのか。それを皆さん、一人一人が考えてほしいと思います。』</p> <p>『これは皆さんが大人になるまでの宿題ということにしましょう。』</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が、国民主権と租税法律主義を意識できるように話します。 ・児童が自分たちのこととして実感し、問題解決のためにどうしたら良いのか考えられるように促しましょう。
<p>まとめ</p>	
<p>『では、最後に今日の租税教室でお話したことのおさらいをします。』</p> <p>『「私たちが主人公」「思いやり」という言葉が税金とどんなつながりを持っているか、考えました。私たちの社会の中で、どんなところで税金が役立っているか、とういことをお話しました。』</p> <p>『次に、ゲームを通して税金を公平に集めるためにはどうしたらいいのか、を考えてもらいました。』</p>	<p>◎最後の理解確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の租税教室で話した三つのテーマを改めて確認しておきます。 <p>一つめに、税金が社会を支えるために必要であることを認識してもらいました。</p> <p>二つめに、税金を公平に集めるためにはどうしたらいいのかを考えてもらい、決定までの流れを体感してもらいました（国民主権と租税法律主義）。</p>

第3章 小学生向け講義用テキスト《参加・体験型》

シナリオ	説明文
<p>『そして、集めたお金（税金）と使われているお金のバランスについてお話ししました。』</p> <p>『今回の租税教室で、税金がどのように決められているのかを実感してもらいたかったのです。それは、税金に限らず社会のさまざまなルールが皆さんの意見や考えによって決められているということなのです。』</p> <p>『これからの日本を支えていくのは、皆さんののです！皆さんが大人になった時に、今よりもっと素敵な日本にするために自分たちがどうすればいいのか？今回の租税教室がこれらを考えるきっかけにしてもらえれば幸いです。』</p> <p>『ではこれで租税教室を終わります。ありがとうございました。』</p>	<p>三つめに、歳出（支出）と歳入（税収）のバランスを適正にするために今後どうしたらいいのかを考えてもらいました。児童が主体的に考えられるようになることが大切です。</p> <p>・最後に、今回の租税教室の目的を話して締めくくります。税金という社会のルールの一つを取り上げていますが、社会における様々な問題について一人一人が考え、判断をして、そして行動することができるようになって欲しいということを伝えます。</p> <p>これからの日本を担っていくという意識を児童に持ってもらいましょう。</p> <p>・税理士が行う租税教育は、単に「税金を納めましょう」という納税教育ではなく、租税の意義・役割・公平な仕組み・租税法主義などの基礎知識を伝えることによって、租税に興味・関心を抱いてもらい、租税について深く考え理解する力を育み、租税教育を通じて、児童一人一人が社会全体のことを考え、租税法のあり方や税金の用途について正しい判断力を持つ国民に成長してもらうことを目的としています。</p>